

## 感謝と応援の輪を広げる

NPO法人チームふくしま 半田真仁さん、清野巽さん



### 現在の活動：全国と福島をつなぐ

「[福島ひまわり里親プロジェクト](#)」を行っています。全国から、ひまわりの里親さんによって育てられた種を送っていただき、種の仕分け作業等が県内の障がい者雇用の応援に、県内で配布された種が福島観光の応援に役立てられています。 ※右下図

福島への想いやエピソードを語る「ひまわり甲子園」や、ひまわり畑の中で行う結婚式なども実現し、一部の中学校の公民や道徳教育の資料集でもプロジェクトが取り上げられています。



理事長の半田真仁さん



事務局の清野巽さん

### 活動のきっかけ：「長く、福島のために」の思い

（半田さん）震災前から今も、福島で会社経営をしています。震災直後、お付き合いのある福祉事業所で仕事の依頼が途絶えるなど、多くの課題に直面しました。経営者の仲間と何度も相談し、「募金など直接支援だけでなく、将来の日本のために」と、ひまわりを使ったプロジェクトが始まりました。福祉事業所には、種の仕分けや発送などを新たに担当いただくことで、雇用のお手伝いもできました。

（清野さん）高校卒業の年に福島で震災を経験しました。大学進学後に所属したボランティアサークルの活動中、このプロジェクトに出会いました。関わるうちに、プロジェクトの大きさ・ひまわりを育てることのできるつながりを感じるようになりました。

教員や一般企業など大学卒業後の進路には悩みましたが、「全国からの福島に対する応援や想いに恩返しできれば」と思っていたので、新卒からこのNPOに就職することを決めました。

<福島ひまわり里親プロジェクト>

#### ①種の製造

震災で仕事が減少した  
福島の障がい者の作業所で  
種をバック詰め・全国へ販売



福島県二本松市NPO法人和で製造

#### ②全国で開花・種を福島へ

全国の里親さんが種を購入  
学校・企業など各地域で栽培  
採れた種を福島に送付



全国11万人、教育団体1,000校以上参加

#### ③福島に配布・開花

全国から届いた種は福島の  
学校などに無料配布。  
復興のシンボルとして開花



2015年、福島県内へ30,000袋以上配布

#### ④福島の種はエネルギーに

福島で採れた種は搾油後、  
バスのエネルギーとして使用  
2箇所の福祉作業所の仕事に



県内の種は搾油しバスのエネルギーとして使用

# 復興のパイオニア（平成30年9月）

## 活動から得たもの：日本中との繋がり

（半田さん）大切な時間を費やして花を育て、応援してくださる方が延50万人もいる、日本という国のすごさや思いやりに、とても感謝しています。

行政に対しても同感です。県外から多くの行政職員が福島を応援するために派遣されています。直接的な支援ばかり注目すると気づきにくいですが、背景まで考えると、多方面から支えられていることを感じられます。

（清野さん）7年半経った今でも、本気で、福島のことを思ってください方とのつながりができました。また、近年の熊本地震・西日本豪雨・北海道地震の被災地へ「福島からの応援」として種をお送りするなど、新たなつながりも生まれています。このプロジェクトの事務局として、様々な想いを形にし、相互に広く届けたいと思います。



鹿児島県の里親さんが育てたひまわり

## 今後の活動：全国へ、そして次世代への継承

（半田さん）教育現場でも累計5000校以上に活用いただき、次世代へもプロジェクトが伝わり始めています。事業体制を強化するため認定NPOを目指していますが、いずれ当初の課題が解決すれば、福島での取組から「日本ひまわりプロジェクト」として、日本全体に、次世代に、伝承・伝達させていきたいです。

（清野さん）全国の里親さんからひまわりの種と一緒に届くメッセージは、プロジェクト自体に対してだけでなく、福島を応援するメッセージばかりです。将来、この震災での1つの記録として発信できるよう、メッセージをアーカイブ化していきます。



（上）ひまわりの種と、ルポ絵本  
[関連グッズはこちら](#)

（下）全国や福島県内で  
ご協力いただいているみなさん

